

授業科目：成人看護学実習Ⅲ（緩和ケアを必要とする人の看護）

科目目標：1 緩和ケアが必要な対象の特徴を述べることができる。

2 全人的苦痛をとらえ、苦痛の緩和およびQOLの維持・向上のための援助ができる。

行 動 目 標	内 容	方 法
1 緩和ケアが必要な対象の特徴について述べられる。	1) 全人的苦痛 (1)身体的 (2)精神的 (3)社会的 (4)霊的 2) 告知の有無 3) 病気に対する受け止め方 4) 死の受容過程 5) 自己価値の変容	<ul style="list-style-type: none"> ・終末期にある対象を受け持ち、看護過程を展開する。
2 全人的苦痛の内容とその程度についてアセスメントし、苦痛の緩和ができる。	1) 症状のアセスメントとその緩和 (1)疼痛 (2)倦怠感 (3)浮腫 (4)呼吸症状 (5)腹部症状 (6)精神症状 (7)薬剤使用時の看護 2) 受容過程に応じた援助 3) 傾聴、共感的態度	
3 対象のQOLの維持・向上のための援助ができる。	1) 変化したセルフケア能力に対する援助 2) 二次障害の予防 3) 安全・安楽への配慮 4) その人らしさに向けての援助 5) 意思決定への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・対象の療養生活の状況に合わせ、希望を取り入れながら、安全を守るために必要な援助について考え、実践する。
4 家族の特徴を踏まえた援助ができる。	1) 家族の受け止め方 2) 家族のニーズ (1)治療や医療者に対する要望 (2)ケアへの参加 (3)残された時間の過ごし方 3) 家族の身体的・精神的苦痛 4) 経済的不安 5) グリーフケア 6) ケアに関する相談、調整、教育 7) 家族の意思の代弁	
5 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とその方法を述べられる。	1) チーム医療とその必要性 2) チーム医療における看護の役割と責任 3) チーム医療の実際と、効果的な実施方法 (1)在宅支援	<ul style="list-style-type: none"> ・機会があれば病棟のケースカンファレンスに参加し他職種との関わりを学ぶ。

行 動 目 標	内 容	方 法
<p>6 危篤状態、臨終の場面における看護師の役割を述べられる。</p> <p>7 自己の死生観について述べられる。</p>	<p>1) 危篤状態と看護師の態度</p> <p>2) 危篤状態における援助</p> <p>(1) 徴候の観察</p> <p>(2) 心身の安楽への援助</p> <p>(3) 死の徴候とその確認</p> <p>(4) 死後のケア</p> <p>1) 死の意味と概念</p> <p>2) 告知の是非とインフォームドコンセント</p> <p>3) 終末期における QOL</p> <p>4) 生と死についての考え</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 実施の機会があれば一部体験し、カンファレンスで学びを共有する。 • 受持ち患者の事例や文献を活用し学習したことを基にカンファレンスで話し合う。 • 臨地および実践活動外実習で終末期における倫理について考え、看護の在り方を考える。